

# 技術で未来拓く

(215)

—産総研の挑戦—

## 地理空間再現情報を活用

き、多様な幸せが実現できる社会」というデジタル社会の政策ビジョンを掲げ、その実現に向けさまざまな施策が進められている。

産総研では、デジタル社会の中核技術である人工知能を用いたデータ分析技術や自律モビリティの研究を進めている。また、多くの組織や社会の構成員の間でデータやシステムをつなぐため、デジタルアーキテクチャと呼ばれる方法論を研究している。さらに、研究成果の社会実装に向けて、自治体や商業施設での実証実験も進めている。

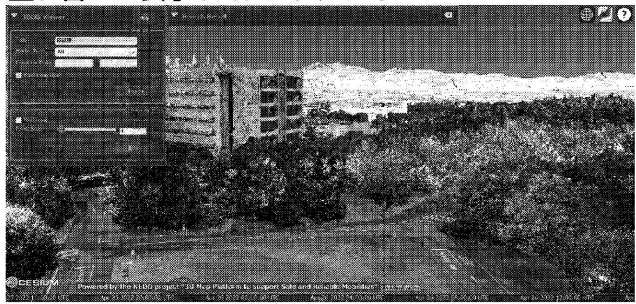
### 安全・安心な生活

産総研ではデジタル社会を実現するための基盤として、街のデジタルツインの研究を行っている。デジタルツインとは、「現実空間から収集したさまざまなデータを用いて、コンピュータ上に作った仮想空間」であ

### 街のデジタルツイン

デジタル技術の飛躍的な進歩により、多様なデータを低コストで効率的に収集・分析できるとなり、さまざまな分野でシミュレーションも可能になってきた。「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことがで

産総研つくばセンターを例に複数の地理空間データを重ね合わせ表示したデジタルツイン



(産総研提供)

人口減少に伴い、財政難による公共サービス縮小などの問題に直面している。デジタル社会は情報通信技術(ICT)を活用することで、この問題の解決を目指している。

産総研では、デジタル社会を実現するための基盤として、街のデジタルツインの研究を行っている。デジタルツインとは、「現実空間から収集したさまざまなデータを用いて、コンピュータ上に作った仮想空間」であ

産総研では、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の委託で、「人工知能技術適用によるスマート社会の実現」の研究を進めている。具体的には、多種多様な地理空間データを正確に重ね合わせる技術、デジタルツインを容易かつ安価に更新するための技術、複数の組織が安心してデジタルツインを利用すること、安全なデジタルツインを送れるデジタル社会が実現する。

産総研では、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の委託で、「人工知能技術適用によるスマート社会の実現」の研究を進めている。具体的には、多種多様な地理空間データを正確に重ね合わせる技術、デジタルツインを容易かつ安価に更新するための技術、複数の組織が安心してデジタルツインを利用すること、安全なデジタルツインを送れるデジタル社会が実現する。

産総研 デジタルアーキテクチャ 研究センター  
総括研究主幹  
中村 良介



### プロフィール

スマホでまわりのものを3次元で記録したり、そのデータをVR(仮想現実)やAR(拡張現実)の機器で表示したりすることが、誰でも手軽にできるようになりつつある。現実空間に重ね合わせた仮想空間に意味を載せていくことは、今後のあらゆる産業や生活の基盤となるだろう。こんな楽しい時代に生きていることに感謝したい。

(木曜日に掲載)